

水稲栽培基本情報（水管理）

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

千葉県農林水産部
平成28年6月

■ 中干しの実施

中干し開始目標茎数は、表1のとおりです。排水しにくいほ場では、中干し開始数日後に溝切りを行うと効果的です。

表1 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日 5月1日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)

※（ ）内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある。

■ 幼穂形成期以降の水管理

○低温時には湛水

幼穂形成期以降に日平均気温20℃以下の低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。また、低温が予想される場合でも、穂肥は施用しましょう。

表2 低温時湛水深の目安

幼穂形成期から冷害危険期まで（出穂25～16日前）	湛水深10cm程度
冷害危険期（出穂15～10日前）	湛水深20cm程度

○中干しから出穂後までの水管理

～全量基肥（一発肥料）栽培の場合も水管理は大切です～

基本的な水管理は①～④のとおりです。特に、「③」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。「安全・安心」な米作りのために注意して管理しましょう。

- ① 中干しは強すぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 十分に中干しができたら、出穂3週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理
(幼穂を確認したら、入水を開始する。)
- ④ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

○乳白米の発生を防止する水管理

出穂期から出穂2週間後は、米の品質を決定する重要な時期です。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。湛水管理をしっかり行い、品質低下を未然に防ぎましょう。